

世界遺産登録までの道のり

- 1997年(平成9年)11月
市民団体による世界遺産登録に向けた運動を開始
- 2006年(平成18年)4月
新潟県と佐渡市が連携し、世界遺産登録に向けた取り組みを開始
- 2010年(平成22年)11月
「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」の名称で、ユネスコ世界遺産暫定リストに記載
- 2015年(平成27年)3月
世界遺産推薦を目指し、国へ推薦書原案を提出(1度目の挑戦)
- 2016年(平成28年)3月 2度目の挑戦
- 2017年(平成29年)3月 3度目の挑戦
- 2018年(平成30年)3月 4度目の挑戦
- 2021年(令和3年)3月 5度目の挑戦
- 2021年(令和3年)12月
国の文化審議会において国内の推薦候補に選定
- 2022年(令和4年)1月
政府がユネスコ世界遺産へ推薦することを正式表明
- 2023年(令和5年)1月
推薦書再提出
- 2023年(令和5年)8月
イコモス現地調査
- 2024年(令和6年)6月6日
イコモスから「情報照会」の勧告がなされる
- 2024年(令和6年)7月27日
ユネスコ世界遺産委員会で、世界遺産登録が決定!



2006年 世界文化遺産講演会



2006年 現地見学会



2007年 調査委員会



2010年 世界遺産暫定リスト単独記載



2010年 砂金採り体験



2012年 出前授業



2019年 きらりうむ佐渡オープン



2019年 県外イベント



2019年 首都圏講演会



2019年 御金荷の道ウォーク



2020年 署名49万筆達成



2020年 きらりうむ佐渡ワークショップ



2022年 ユネスコ世界遺産へ推薦



2022年 推薦決定イベント



2022年 推薦決定記者会見



2023年 金の道ラッピングバス



2023年 西三川地区草刈りボランティア



2024年 世界遺産決定!



2023年 イコモス現地調査



2023年 佐渡金銀山音声ナビ開始

発行: 令和6年7月31日 佐渡市観光振興部世界遺産推進課

TEL: 0259-63-5136

新潟県観光文化スポーツ部文化課世界遺産登録推進室

TEL: 025-280-5726



佐渡市世界遺産推進課HP



「佐渡島の金山」HP

Sado Gold and Silver Mine Newsletter

佐渡金銀山だより

特別号

祝「佐渡島の金山」世界文化遺産登録決定!



令和6年7月27日(土)、第46回ユネスコ世界遺産委員会(インド・ニューデリーで開催)において、「佐渡島の金山」の世界遺産一覧表への記載が決定しました!

永年にわたり、「佐渡島の金山」の世界遺産登録に向けてご支援・ご協力いただき、誠にありがとうございました!

新潟県と佐渡市では、人類共通の宝となった「佐渡島の金山」を、今後も大切に保護するとともに、皆さまに愛される世界遺産となりますよう取り組みを進めてまいります。

引き続き、皆さまのご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

佐渡島の金山関連年表

- 12世紀(平安時代)『今昔物語集』に能登の人が佐渡で金を採取したと記録される(西三川砂金山)
- 15世紀(室町時代)世阿弥が佐渡に流され、『金島書』を書く
- 1542年(天文11年)鶴子銀山が発見される
- 1601年(慶長6年)相川金銀山が本格的に開発される
- 1603年(慶長8年)大久保長安が佐渡代官になる
- 1604年(慶長9年)佐渡奉行所が建てられる
- 1621年(元和7年)佐渡で小判の製造が始まる
- 1653年(承応2年)京都から水学宗甫が来島し、水上輪の作り方を伝える
- 1696年(元禄9年)南沢疎水道が完成する
- 1759年(宝暦9年)佐渡奉行所に寄勝場が設置される
- 1869年(明治2年)明治政府直営の佐渡鉱山になる
- 1872年(明治5年)西三川砂金山が閉山する
- 1946年(昭和21年)鶴子銀山が閉山する
- 1989年(平成元年)佐渡鉱山が操業を休止する



鶴子銀山(相川鶴子金銀山)

相川金銀山発見のきっかけとなった銀山

鶴子銀山は、相川金銀山の約1.2km南方に位置する鉱山遺跡です。1542(天文11)年から1946(昭和21)年まで採掘が続けられました。

1589(天正17)年、越後の上杉景勝が佐渡を攻めて支配すると、鶴子銀山に代官を置いて銀山経営を統括させました。上杉氏の佐渡支配によって、鉱山開発は大規模化しました。鶴子銀山では、16世紀中頃に地表近くの鉱石を掘り採る「露頭掘り」に始まり、その後、石見銀山



から来た山師によって「坑道掘り」が伝えられ、複数の鉱脈の同時採掘や坑内の排水が可能となり、銀の産出量が飛躍的に増加しました。また、採掘・選鉱・製錬等、分業化がすすめられ作業効率が高められました。これにより銀を求めて多くの鉱山労働者が各地から集まり、鉱山労働者の町や、物資を搬入する港が整備され、「鶴子千軒^{つるしせんげん}」といわれる繁栄期をむかえました。鶴子銀山の発見・開発は、島内の鉱山開発に大きな影響をあたえ、やがて相川で大規模な金銀鉱脈が発見されるきっかけとなりました。

大滝間歩:江戸時代の記録や絵図にも登場する鶴子銀山を代表する坑道掘り跡です。ロボットによる坑内探査を行い、江戸時代の絵図とほぼ同じ状態で残っていることがわかりました。(国史跡)

百枚平地区の大露頭掘り跡:鶴子銀山で初期に開発されたと伝えられる採掘場所で、地表近くの鉱石を掘った大規模な露頭掘り跡が集中しています。「百枚平」は、月に銀100枚を税として納めたことから名付けられたと伝えられています。(国史跡)

西三川砂金山

平安時代から採取が始まったとされる佐渡最古の砂金山

西三川砂金山は、12世紀末に成立したとされる『今昔物語集』に登場したと考えられる佐渡最古の砂金山です。1589(天正17)年、佐渡を支配した越後の上杉景勝は、西三川砂金山の再開発を行い、産出した砂金を豊臣秀吉に納めました。16世紀後半、月に砂金18枚(約2.9kg)を税として納めたことから、村は「笹川十八枚村」と呼ばれ、大変な賑わいを見せたといわれています。西三川では、砂金が含まれている山



虎丸山:西三川砂金山最大の採掘地です。砂金を採るために掘り崩された山の斜面には現在も植物が生えず、赤い山肌をあらわにしています。(国史跡・国重要文化的景観)

金子勘三郎家:江戸時代後期から1872(明治5)年の閉山まで砂金山の世話役を代々つとめました。19世紀に建てられた茅葺き屋根の主屋のほか、土蔵、納屋、牛納屋などが残っています。(国史跡・国重要文化的景観)

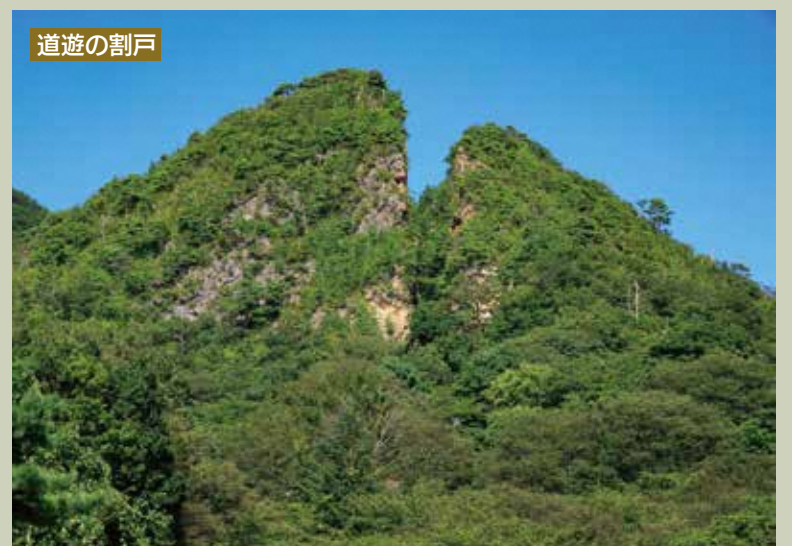


を掘り崩し、余分な石や土を大量の水で洗い流してから、残った砂金をゆり板で選びとる「大流し^{おおなが}」という採掘が行われました。この大流しに必要な水を得るため、周辺にはいくつもの水路がつくられ、最長で9km以上におよぶものもありました。江戸時代には、佐渡奉行所から「西三川金山役」という役人が派遣され、砂金採りが続けられました。しかし、しだいに産出量が減少し、1872(明治5)年には閉山となりました。

相川金銀山(相川鶴子金銀山)

16世紀末から稼働した日本最大級の金銀山

相川金銀山は、鶴子銀山の山師たちが新しい鉱脈を求めて相川の山に分け入って発見したといわれています。江戸時代を通じて金は約41トン、銀は約1,800トン採れ、日本最大の金銀山でした。相川で金銀が採れるようになると、島外から多くの人々がやって来たため、海辺に5〜6軒の家しかなかった相川の人口は、一時5万人にまで増えたといわれ、海に面した台地の先端につくられた佐渡奉行所を中心に、



道遊の割戸:相川金銀山のシンボルで、上部の露頭掘り跡は、江戸時代に人力によって掘られたもので深さ約74m、幅約30mにもなります。(国史跡・国重要文化的景観)

佐渡奉行所跡:1603(慶長8)年に大久保長安によって建設されたもので、佐渡の行政と鉱山経営の中心でした。
*現在は建物の一部が復元公開されています。(国史跡・国重要文化的景観)

京町や米屋町、味噌屋町など職業別の町が計画的につくられました。相川金銀山で産出した金の一部は、西三川の砂金とともに相川で小判に加工され、銀とともに小木港から江戸へと運ばれていきました。徳川幕府はこれらの金銀を資金として、政治や外国との貿易に利用しました。